

全国米山学友会会長セミナーのご報告

報告者 米山学友会兵庫会長 傅 建良 (HYOGOロータリーEクラブ)

国際ロータリーのプログラムの参加者として、米山奨学生学友もロータリーファミリーの一員であることは近年明確されつつあります。それによって、ロータリーの奉仕精神を受け継いでいる米山学友そして米山学友会への注目や期待も高まっています。そのような背景の下、2015年1月17日（土）に東京プリンスホテルにて全国米山学友会会長セミナーが開催されました。



(写真はロータリー米山記念奨学会Facebookより)

セミナー開会にあたって、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会の三井章義副理事長により、開会のご挨拶を頂戴致しました。同記念奨学会の岩邊俊久事務局長による米山奨学事業及び学友会についての紹介の後、3地区の学友会会長による学友会運営についての事例紹介が行われました。一つ目は学友の在住者の多い地域の代表である2660地区学友会で、二つ目は学友の在住者の少ない地域の代表である2800地区学友会で、三つ目は複数の県また複数の地区の学友会の代表である2620地区学友会です。三つの事例紹介を通して、ロータリアンへの感謝の気持ち及び恩返しこそ学友会活動の原点であることを再確認しました。また、他の学友会にとって大変参考になりました。

昼食後、第二部のグループディスカッションがスタート。学友会の活性化、よかった活動、学友会の目的に沿った活動、学友会の課題、役員決定、組織作り、奨学生との交流、地区委員会との関係づくり、地区への協力・参加等について約2時間にわたって、活発的に議論及び意見交換が行われました。これらの内容をグループごとにまとめて5分以内発表して、その後、質疑応答の時間に入りました。各地区に合った最善の形で学友会活動を展開することや学友会間の定期的な交流等において合意が得られました。また、ある学友会会長の悩みとして話題に出た「学友会に入ってどんなメリットがある」と聞かれたことに対して、そのようなことを聞く学友にフロアからも厳しい意見がありました。セミナー第二部の最後はよねやま親善大使による活動報告及び第二代親善大使募集の広報でした。

セミナーの第三部は懇親会で、和やかな雰囲気の中で学友会会長による自己紹介がありました。締めくくりは岩邊事務局による“Ubuntu”（あなたがいるから私がいる）にまつわる深いお話しでした。私たちに寛容の心や分かち合いの精神を教えてくれる奥深い言葉です。

今回のセミナーを通じて大変勉強になり、そして、セミナーで得られたものを今後、当学友会の運営に活かして、学友会をさらに盛り上げることに努力してまいります。